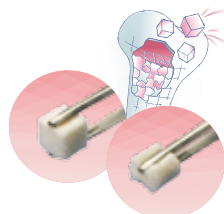
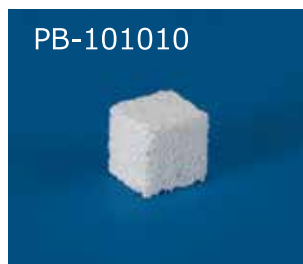




Collagen Hybrid  
リフィット®



## 製品一覧



| 形 状  | 品 番       | 寸 法         | 包装単位/箱     | 区分名略称       |
|------|-----------|-------------|------------|-------------|
| ブロック | PB-101010 | 10×10×10 mm | 1個 (1.0mL) | 人工骨：AB-06-2 |
|      | PB-103020 | 10×30×20 mm | 1個 (6.0mL) |             |

# PENTAX

製造販売業者

**HOYA Technosurgical 株式会社**

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-4

TEL 03-5369-1710 FAX 03-5369-1711

■札幌オフィス 〒060-0007 札幌市中央区北七条西13-9-1 TEL:011-241-3473 FAX:011-241-3472

■仙台オフィス 〒981-3133 仙台市泉区泉中央1-7-1 TEL:022-371-6944 FAX:022-371-8924

■名古屋オフィス 〒461-0001 名古屋市東区泉1-21-27 TEL:052-955-8572 FAX:052-955-8573

■大阪オフィス 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-17-9 TEL:06-6263-1679 FAX:06-6263-1686

■福岡オフィス 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町3-8 TEL:092-281-6860 FAX:092-281-6869

URL [www.hoyatechnosurgical.co.jp](http://www.hoyatechnosurgical.co.jp)

ご注文先

**益子工場**

〒321-4292 栃木県芳賀郡益子町大字塙858

TEL 0285-72-6253 FAX 0285-72-6259



RF103303

**HOYA**  
TECHNOSURGICAL

医療機器承認番号  
22400BZX00222000  
滅菌済  
単回使用

医療用品4. 整形用品 高度管理医療機器 コラーゲン使用人工骨 クラスIV



Collagen Hybrid  
リフィット®

## 自家骨移植に リフィットを併用したOLIF



資料提供：

京都大学大学院医学研究科

運動器機能再建学講座

特定教授 藤林 俊介先生

● 臨床成績

低侵襲腰椎側方固定術(LIF)が近年広く行われている。LIFには経大腰筋的に椎間板にアプローチするXLIF(eXtreme Lateral Interbody Fusion)と大腰筋前縁から椎間板にアプローチするOLIF(Oblique Lateral Interbody Fusion)があるが、われわれは直視下での操作により安全性が高いと思われるOLIFを行っている(文献1)。

いずれの術式も側方から大きなケージを椎間板に挿入することで、間接的な神経除圧と脊柱変形矯正を行うことができ、ligamentotaxisによりケージの高い安定性を得ることができる。しかしながら骨癒合を得るためにはケージ内部に大量の骨移植を行う必要がある。腸骨からの骨採取には採骨部痛などの合併症、採取出来る自家骨の量や質などの問題があり、本術式においては同種骨や人工骨を併用することでそれら問題に対処する必要がある。

当施設では自家骨の量を補うためにリフィットをケージ内に充填してOLIFを行っており、腸骨の採骨部欠損にもリフィットを充填し、良好な手術成績を得ているので、その術式と症例を紹介する(文献2)。

● 術中写真



図1 腸骨採取部骨欠損へのリフィットの充填  
(矢印：リフィット)

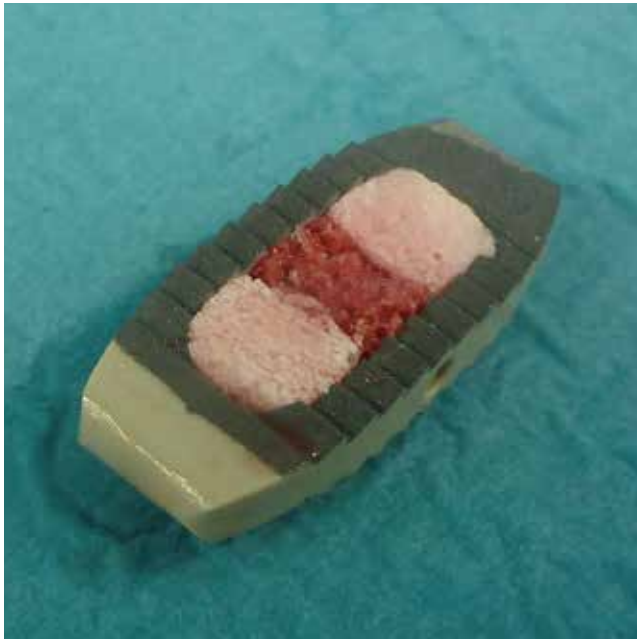


図2 ケージへの自家腸骨とリフィットの充填

● 術式

腸骨稜に約2cmの皮膚切開、腸骨稜の皮質骨を1×1.5cm大で切除して内部の海綿骨を採取する。採取した欠損部には生理食塩水に浸したリフィットを1～2個充填する(図1)。これにより骨からの出血を抑えることができるとともに欠損部の骨再生が期待できる。採取した皮質骨と海綿骨をOLIF用ケージに充填するが、不足分をリフィット1～2個にて補う(図2)。生理食塩水に浸したリフィットは自家骨、ケージとの形状的な適合性が良好であり、ケージを椎間板内に挿入する際にもケージから脱落することがない。

参考文献  
1. Fujibayashi S, Hynes RA, Otsuki B, Kimura H, Takemoto M, Matsuda S. Effect of Indirect Neural Decompression Through Oblique Lateral Interbody Fusion(OLIF) for Degenerative Lumbar Disease. Spine 2015 40(3):E175-182  
2. 谷田 司明, 藤林 俊介, 大槻 文悟, 松田 秀一 OLIFの術後2年での骨癒合率 過去の当院でのTLIFの骨癒合率と比較・検討 日本脊椎脊髄病学会雑誌 2018, 9(3) 449

● 症例 腰椎変性すべり症(40代 女性)

1年ほど前からの両臀部から下肢の痛みとしびれのため、5分以上の歩行が困難となった。腰椎変性すべり症に対し、OLIF(L4-5)によるすべりの矯正と間接的な神経除圧を行った(図3)。ケージ内には中央部に自家骨、両脇にリフィット2個を充填し、椎間に挿入した。

術後は速やかに症状が消失し、歩行が可能になった。ケージ内のリフィットはCT像における陰影が経時的に明瞭となり骨癒合が得られている(図4)。また採骨部も充填したリフィットにより修復されている(図5)。

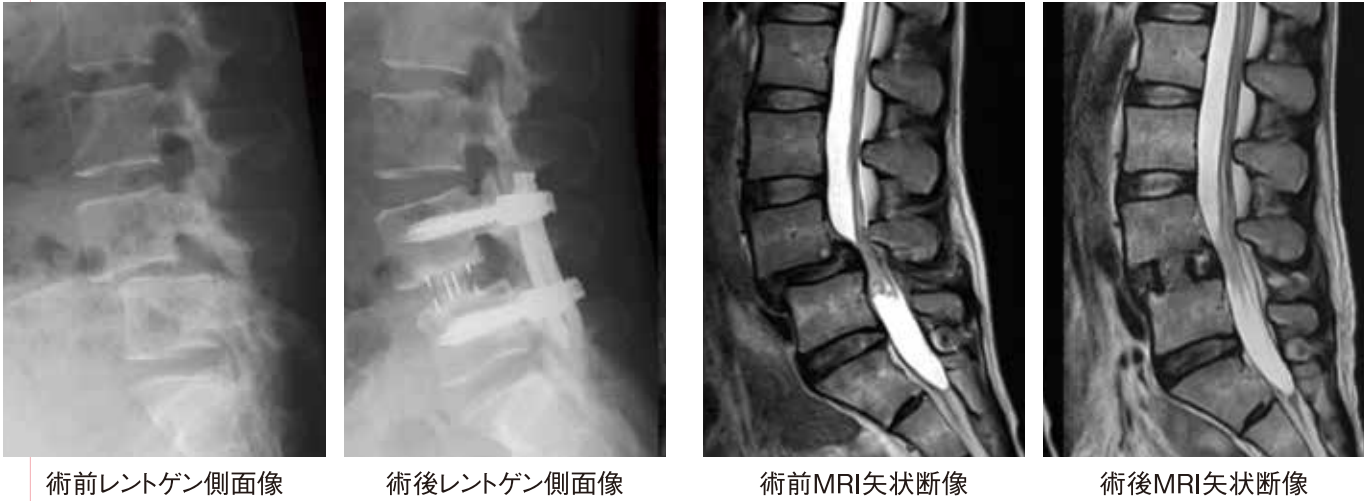


図3 L4-5 OLIF

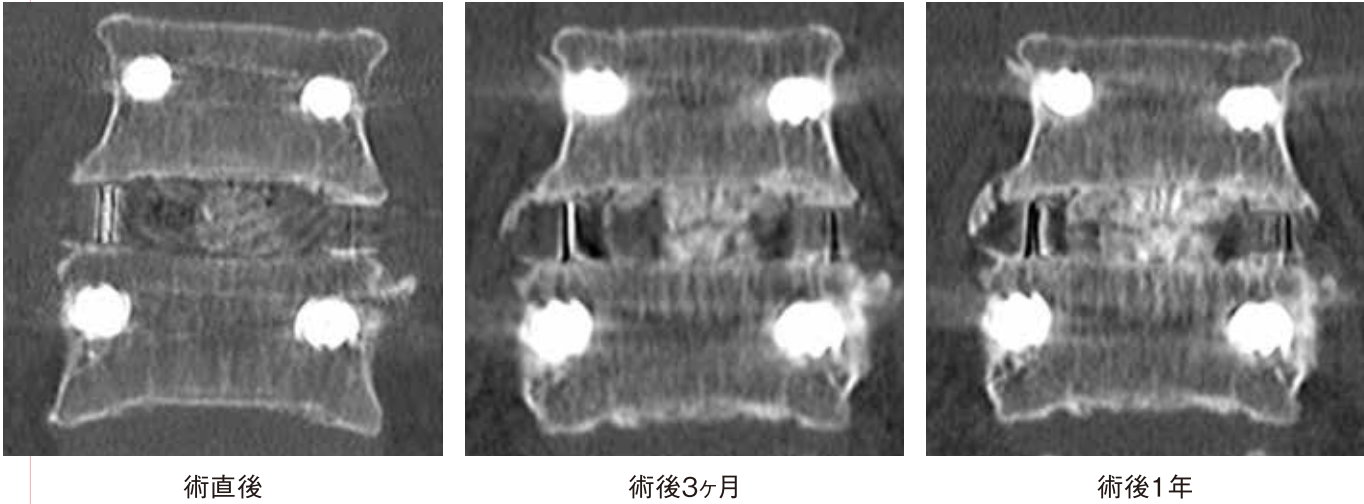


図4 OLIFケージ内の移植骨およびリフィットの経時的変化

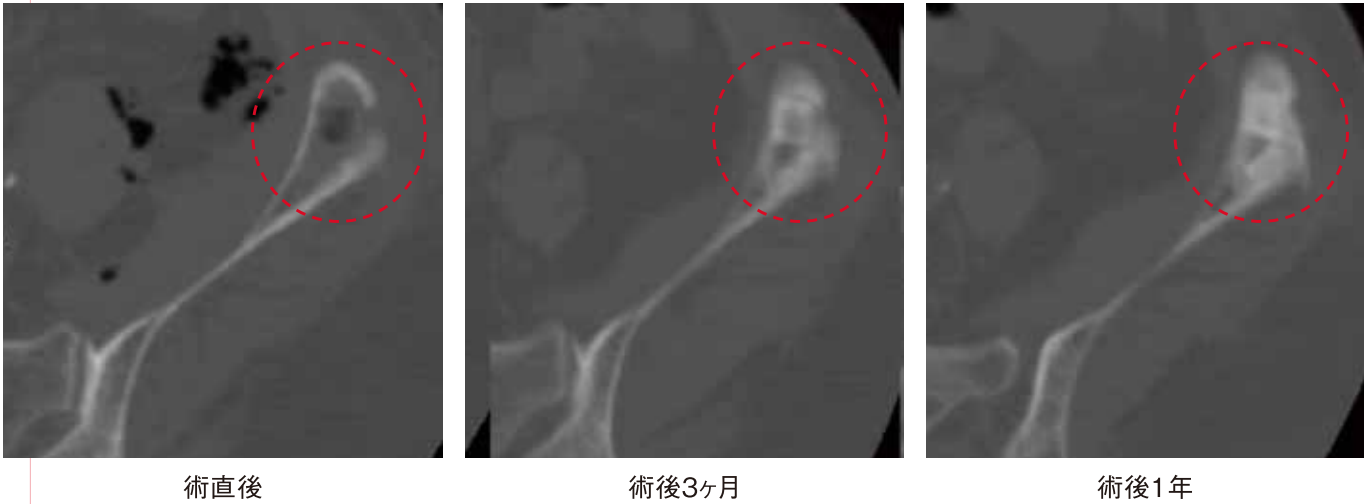


図5 採骨部のリフィットの経時的変化